

## 「やばい」の現状とコミュニケーション

～私たちは「やばい」をどう使うべきなのか～

● 熊谷 愛未

### 序章

#### 目的

若い人の会話に耳を傾けてみるとよく使われている「やばい」という言葉。最近ではあらゆる場面で使われており、インターネット上では若者は「やばい」だけで会話になると書き込まれていたりするほどである。使っている人々は気軽に何気なく使っているのだろう。しかしその一方で、どんなことに対しても「やばい」を使うことは日本語の乱れであるという人もいる。

この論文では「やばい」が現在どのように使われているかに注目し、詳しく分類、分析していく。その上でコミュニケーションにおける「やばい」はどのように受け入れられていて、どのような働きをしているかを様々な角度から見ていく。これらからわかったことを元に、これから「やばい」という言葉はどのように使われるべきなのかを考えていく。

#### 構成

この論文の構成は以下の通りである。

第1章では、まず「やばい」の本来の意味を確認し、語源について整理する。そして現在使われている「やばい」に至るまでの変化の過程を見ていく。

第2章では、現在使われている「やばい」を具体的に分類、分析していく。

第3章では、「やばい」とコミュニケーションについて様々な角度から考えていく。そして「やばい」をコミュニケーションで使うことのメリットとデメリットをまとめる。

この論文では現在の「やばい」、新しい「やばい」という言葉が出てくる。ここでこれらの言葉を整理しておく。

現在の「やばい」は、現在使われている「やばい」のことである。本来の意味と本来の用法、新しい意味と新しい用法、これらを全てひっくるめて現在使われている使い方を表しているのが、現在の「やばい」である。

新しい「やばい」は新しい意味である肯定的・プラスの意味と新しい用法で使われる「やばい」のことを指す。現在若者ことばと扱われている「やばい」もこれにあたる。

### 第1章 「やばい」の始まりと変化

#### 1. 1 意味と語源

まず「やばい」の意味を確認してみると、デジタル大辞泉には次のように記述されている。

〔形〕《形容動詞「やば」の形容詞化》危険や不都合な状況が予測されるさま。あぶない。  
〔一・い商売〕「連絡だけでもしておかないと一・いぞ」

◆若者の間では、「最高である」「すごくいい」の意にも使われる。「この料理―・いよ」「やばい」という言葉の本来の意味は、危険や不都合という否定的・マイナスの意味である。若者の間で使われているとされる「最高である」「すごくいい」は本来の意味ではなく新しい意味である。

それでは「やばい」の語源はどのようなものなのだろうか。語源について調べていくといくつかの説があることがわかった。

まずは「やば」という言葉が形容詞化したという説である。「具合の悪いさま」「不都合」という意味の形容動詞「やば」が形容詞化され「やばい」になったという。しかし、この「やば」にも2つの説があることがわかった。

1つは「厄場（やくば、やば）」が形容詞化して「やばい」になったという説である。「厄場」は牢屋、看守のことを表す隠語とされる。西谷裕子の『身近な語源辞典』（2009）によると、「厄場」は江戸時代には形容動詞として、法に触れたり危険であったりして、都合が悪い、あぶないという意味で「やばなことをしでかす」などのように使われ、のちに形容詞化して「やばい」となったという。

もう1つは「矢場」が形容詞化して「やばい」になったという説である。西垣幸夫の『日本語の語源辞典』（2005）によると、矢場は江戸時代にあった弓で矢を的に当てる室内遊戯場のことだが、裏では売春が行われており、それを取締るという意味の隠語として使われていたものが形容詞化して「やばい」になったという。

「やば」からの形容詞化以外には「やばな」が形容詞化という説もある。『暮らしのことば 新語源辞典』（2008）で吉田永弘は、江戸時代に上方で使われていた「危ない・不都合だ」という意味の形容動詞「やばな」が、形容詞化して「やばい」となったとしている。

これらの他にも「あやぶい」が変化した説や「夜這い」が変化した説などがあるが、多くに共通しているのは、元々は隠語として一部の人々の間で使われていた言葉であったということだ。語源とされるどの語源も、一般的に多くの人に使われていた言葉とは言えない。これらから生まれた「やばい」も元々は盗人などの犯罪者やテキヤなどが使う隠語として使われていた。

## 1.2 表舞台への登場

1.1から「やばい」という言葉は、特定の人々の間で使われていた隠語ということがわかる。それではこの隠語はいつごろから一般的にも使われるようになってきたのだろうか。

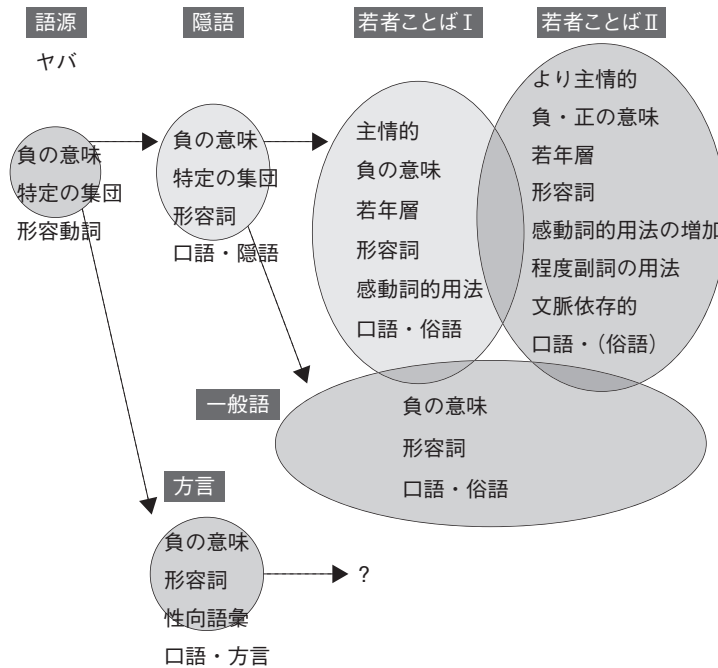
「やばい」が特定の人々以外にも使われるようになったのは戦後と言われている。米川明彦の『日本俗語大辞典』（2003）によると、戦後のヤミ屋が横行した時代に、隠語であった「やばい」が不良少年に広まり、そこから一般の若者にも広がったという。

また新語アナリストの亀井肇によると、1950年代後半に、太陽族の中心的存在であった石原裕次郎などが、若者言葉の代表格として映画の中で「やばい」を使い始めたという。太陽族とは、石原裕次郎も出演した映画『太陽の季節』（1956年）から作られた造語で、無軌道で不道德な若者のことを指す。そのような太陽族の中心的存在の石原裕次郎が映画の中で「やばい」を使うことにより、若者の間にも一気に浸透していったと考えられる。

このように「やばい」という言葉は、特定の人々から若者の間に広まり、そこから一般的にも使われるようになった。「やばい」は表舞台に登場した時から、若者言葉であったと言えるだろう。

### 1. 3 「やばい」の変化—新しい意味と新しい用法の登場—

「やばい」という言葉は現在に至るまでに少しずつ変化をしてきた。その変化の過程を井上博文は『—若者ことば「ヤバイ」の意味変化—』（2011）で以下の様に図式化した。



語源から隠語への変化の過程は1.2で説明した通りである。なおこの図式では方言についての記述もあるが、本論文では方言を対象にしていないため説明は省略する。

この図式を見ると現在の若者ことばと言われている「やばい」に至るまでの変化が2段階あることがわかる。

まず、第一段階の若者ことば I では「主情的」「若年層」「感動詞的用法」「俗語」というキーワードが新しく出てきた。

「主情的」はデジタル大辞泉によると「理性や意志よりも、感情や情緒などを中心とすること」とある。また「俗語」というキーワードがあることから、特定の人々が限られた場面で隠語として使っていた言葉だった「やばい」が、一般的な会話でも使われるようになったと考えられる。「感動詞的用法」については次の第2章で詳しく分析する。

次に第二段階の若者ことば II を見てみると「より主情的」「正の意味」「若者層」「感動詞的用法の増加」「程度副詞の用法」「文脈依存的」というキーワードが新しく出てきた。

第一段階の若者ことばよりもより主情的になったことにより、一般的な会話に気軽に「やばい」という言葉が使われるようになったと考えられる。また感動詞的用法も増加し、新たに「程度副詞の用法」も登場した。「程度副詞の用法」については「感動詞的用法」と同様に、次の第2章で詳しく分析する。

そして第二段階では、これまでの否定的・マイナスの意味とは真逆の「正の意味（肯定的・プラスの意味）」が登場した。これは「やばい」の変化の中でも特に大きな変化と言えるだろう。塩田雄大の『「新興台頭表現」の属性差とメディア—っていか、ヤバくない?—「近年の言語変化」全国調査から(1)』（2003）によると、2001年版の『現代用語の基礎知識』に初めて本来

の意味以外に「魅力がありすぎる」と「正の意味」が登場したという。塩田はこのことから2001年版の収録語採用期間である2000年には、すでに新しく肯定的・プラスの意味の「やばい」が出現したと考えられると述べている。

「正の意味」が登場した「やばい」は「文脈依存的」という要素も持つようになった。これは前後の文脈により「やばい」の意味が変化することを指していると考えられる。塩田によると2001年版の『現代用語の基礎知識』には「魅力がありすぎる」と説明された「やばい」は、2003年版では「あぶない・最悪な状態にも、すごくいいとき・最高の状態にも使う。意味は文脈によって決まる」と説明されていると述べている。これは現在の「やばい」にも当てはまる。このことから、文脈により意味が変わる現在の「やばい」は、言葉そのものの意味よりもどのような文脈で使われるかが大切な言葉になったと言えるだろう。

最初は隠語として、特定の人々の間でしか使われていなかった「やばい」は、次第に一般的にも使われるようになり、現在では若者ことばとして扱われるようになった。そして若者ことばになった「やばい」は隠語のときから大きく変化し、気軽にどのような場面でも使えるような言葉に変化したことがわかった。

## 第2章 「やばい」の現状

### 2.1 分類・分析

ここからは現在使われている「やばい」を意味と用法に分けて分類し、分析する。分類、分析は洞澤伸・岩田奈津紀『若者たちの間に広がる「やばい」の新しい用法』(2009)と井上(2011)を元に、筆者自身が集めた実例を合わせて行う。

まず「やばい」を分類すると以下の通りになる。

<意味>

- ① 否定的・マイナス
- ② 肯定的・プラス

<用法>

- ① 述語的用法
- ② 独立語的用法(感動詞的用法)
- ③ 副詞的用法

次にそれぞれの意味ごとに3つの用法の実例を挙げ分析していく。

なお、第1章の1.3で触れた感動詞的用法は独立語的用法と同じ用法であるため、ここでは独立語的用法として分類する。

### 2.2 否定的・マイナスの「やばい」

#### 2.2.1 述語的用法

ここでは否定的・マイナスの意味で、ある出来事の状態や事態の説明として「やばい」が使われている。

- (1) (雑誌のインタビューにて)「体重計に乗る時はヤバイと感じたとき。」
- (2) (外国で行われたイベントの出演者のツイート)「今回は急遽参加が決まって振り作りから合わせての練習が本当に時間なくて今までで一番やばいって状態で始まったけど(以下略)」

- (3) (動画サイトに動画を投稿したが動画の再生数が少ないことに対し) 「閲覧数がやばい! どないしょー! 見てねー!」
- (4) (回転寿司で回ってきた寿司に対し) 「においがやばすぎて…」
- (5) (野球が好きな会社員が応援している球団に対して) 「(優勝)はちょっと、やばいかな。でも1戦、1戦を無駄にせず、がんばって。」
- (6) (炊飯器が壊れてしまった人のツイート) 「うちの炊飯器の釜が割れたけど、今月やばすぎて炊飯器買えないー」

(1)はファッション雑誌でのモデルの発言である。自身の体重が増えて危機を感じた時を「やばい」で表現している。

(2)は外国で行われたイベントの出演者が、そのイベントの感想を述べたツイートである。本番までの時間が少なかったことに対し使われている。

(3)は若手芸人のツイートである。企画で動画サイトに動画を投稿したものの、再生回数が少なく、動画サイトのURLを貼り宣伝していた。この場合の「やばい」がその焦りや不安を表していると推測できる。

(4)は筆者が友人たちと回転寿司に行ったときの友人の発言である。独特のにおいがする寿司が回ってきたときに、そのことを伝えるために「やばい」を使った。

(5)は2001年9月24日の朝日新聞の朝刊から。野球が好きな会社員が、応援する球団の優勝が厳しいことを「やばい」で表している。

(6)は炊飯器が壊れてしまった人のツイートである。新しい炊飯器を買いたいものの、金欠状態で買えないことを「やばい」で表している。

ここで否定的・マイナスの「やばい」はさらに大きく2つに分けられる。

A 本来の意味(危ない・不都合である)の「やばい」

これに当てはまるのは(1)と(2)である。(1)は体重が増えてしまったことへの危機感から、(2)は時間が足りず、本番に間に合うかという危機感から「やばい」が使われており、本来の意味として使われている。

B 本来の意味以外の「やばい」(→否定的な意味を持つ言葉に置き換えられる)

これに当てはまるのが(3)~(6)である。Aと同じく否定的・マイナスの意味であるが、国語辞典の語釈とは異なる否定的な意味を持つ言葉の代わりに使われている。(3)は動画の再生数が少ない事への焦りや不安、(4)はその寿司のにおいが独特で、それがあまり好きではないこと、(5)は応援している球団の優勝が厳しいこと、(6)は金欠状態であることを表している。これらは否定的・マイナスの意味ではあるものの、国語辞典にある意味ではなく、本来の意味とは違う新しい意味として使われていると言えるだろう。これらの場合、発話者(一人称)またはその話し相手(二人称)が関わる出来事以外にも、発話者(一人称)と聞き手(二人称)以外の人や物など(三人称)が話題になる出来事にも使われる。(3)~(6)は、全て発話者と聞き手以外の人や物が対象である。否定的・マイナスの意味の「やばい」においても本来の意味からさらに広がった意味で使われており、これも新しい「やばい」と言えるだろう。

## 2. 2. 2 独立語的用法

この場合の「やばい」は感嘆詞のように使われる。自身の状況が好ましくないときや、良くないことに気付いたときに使われ、場合によっては「しまった」に置き換えることもできる。

- (1) (竜巻が発生し)「やばい!やばい!竜巻きてるよ!」
- (2) (時間が無くなってしまい)「やばい特急使わないと間に合わない」
- (3) (手持ちの金がないことに気付き)「やっペー、手持ちないよ」
- (4) (テスト勉強をするつもりが寝てしまって)「やばい寝た。もおやだー」

(1)は竜巻が発生したときのニュースで放送された竜巻の動画(視聴者提供)の撮影者が発したものである。みるみるこちらに迫ってきている竜巻を見て、思わず「やばい」を連呼している。

(2)は一般人のツイートである。出かけようとしたものの出発が遅れてしまい、間に合わなくなりそうになり咄嗟に出た「やばい」であると推測できる。

(3)はある雑誌で同棲しているカップルにインタビューした中での発言である。お互いの手持ちの金が無くなったことに気付いた時に「やばい」が使われていた。

(4)は学生のツイートである。テスト勉強をするつもりだったが寝てしまい、起きてから思わずツイートしたものと考えられる。

### 2. 2. 3 副詞的用法

ここでは否定的な意味で程度を強調する「程度副詞」として使われている。多くは「やばいくらい〜」や「やばいほど〜」と表現される。「とても」「すごく」「まったく」などの程度を表す副詞の代わりに使われ、それに続く言葉が強調されている。

- (1)「足がやばいくらい浮腫んでる」
- (2)「やばいくらい胃が痛いのはどうにかならんのか」
- (3) (課題もしくはテスト範囲がたくさんあるのに)「オールしないとやばいくらいの生物の範囲量を自覚しつつ Twitter にいるわたし(。\_-。)」
- (4) (スポーツ選手が休日に何をしているのかを聞かれて)「休みの日は買い物。買い物大好き。洋服を買いすぎて部屋の中はもう、やばいくらい(笑)」
- (5) (睡眠時間が少なく)「2時間しか寝てない。やばい眠い。」

(1)、(2)ともに体の不調に関するツイートである。それぞれ足のむくみ、胃の痛みの前に「やばい」をつけることにより、これらの症状が普段とは違う、症状が強いと強調している。

(3)は「オールしないとやばいくらい」と表現することにより、課題もしくはテストの範囲量が膨大なものであることを示している。「範囲量がやばい」という表現もできるが、「オールしないとやばいくらい」という表現の方がより範囲量を具体的に感じることができ、その量の多さや大変さが伝わるだろう。

(4)は2002年1月1日の朝日新聞の朝刊記事から。スポーツ選手にインタビューし、その答えの一部である。この場合「やばいくらい」の後が省略されているが、おそらく洋服を買いすぎて部屋の中が洋服だらけということを強調していると推測できる。

(5)は省略されている「やばい」である。これは元々「2時間しか寝てない。やばいくらい眠い。」というものが「くらい」が省略され「やばい眠い」で表現されている。副詞的用法では(5)のように「やばいくらい〜」や「やばいほど〜」の「くらい」、「ほど」が省略され「やばい〇〇」と表現されることもある。

否定的・マイナスの「やばい」の副詞的用法では、発話者(一人称)とその他の人や物(三人

称)に関わる出来事において使われることが多く、過去か現在の出来事に関して使われる。

## 2. 3 肯定的・プラスの「やばい」

### 2. 3. 1 述語的用法

否定的・マイナスの「やばい」と同じように、状況を説明するときに使われる。

- (1) (アイスクリームの新作の感想で)「馬鹿美味しい。これはやばい。」
- (2) (ドバイに行ったスポーツ選手が、ホテルからの風景の写真を載せて)「ホテルヤバすぎ!さすがドバイ☆」
- (3) (アイドルの新曲の感想)「新曲初めて聴いたけど、めちゃくちゃカッコいい曲でした。一緒に観てた〇〇さんとこの曲ヤバいって2人揃って声が出ました。」
- (4) (寿司屋でホタテを食べたタレントが)「このホタテ肉厚やばい」
- (5) (とれたての新鮮なウニを食べたアイドルが)「甘っ!やばくない!?!」

(1)はアイスクリームの新作に関するネット記事の中で紹介されたツイートである。「馬鹿美味しい」の後に「これやばい」と続いていることから、アイスクリームが「本当に美味しい」という意味と推測できる。

(2)はあるスポーツ選手のツイートである。試合でドバイに行き、ホテルから見えるきれいな夜景の写真とともにツイートされた。ホテルの部屋、ホテルから見える景色、それらが綺麗で感動もしくは興奮していることを「やばい」で表現している。

(3)はあるバンドのマネージャーのツイートである。バンドのメンバーが組んでいる別のアイドルグループの新曲を聴いた感想であり、その新曲が「とてもかっこよくて、良い」という意味である。

(4)はテレビ番組での発言である。寿司屋で出されたホタテが、見たこともないくらいに肉厚であり、そのことに對し使われた。

(5)もテレビ番組内の発言である。若いアイドル2人がとれたての新鮮なウニを食べた際の発言で、「とても甘くて美味しい」という意味で使われている。

このような「やばい」が使われるのは、良い物などを発見したときや、何かに感動したり興奮したときに、その喜びや驚きを表す言葉の代わりや、それらの物などを褒めるときに使われている。このことから状況や事態の説明だけではなく、発話者の感情を表す用法であることがわかる。またこの場合の「やばい」が使われる出来事の話題になるのは、発話者(一人称)や聞き手(二人称)よりも、食べ物・音楽など、ほかの物や人になることがたいへん多い。

### 2. 3. 2 独立語的用法

否定的・マイナスの「やばい」と同じように、感嘆詞のように使われる。自分に良いことが起こったときやその状況を表すとき、喜び・驚き・嬉しさを表すとき、人や物に對し素敵・可愛い・かっこいい・きれいな褒めるときなどに使われる。

- (1) (元サッカー日本代表選手とフットサルの試合ができるというポスターを見た一般客が興奮気味に)「やべえ!超やべえ!」「やばいでしょ!やばいでしょ!」
- (2) (高級なパイプオルガンを弾いて興奮気味に)「やべえなこれ!」

- (3) (イベントで発売されるTシャツを見て)「やばいめっちゃかわいい全部欲しい！」
- (4) (カラオケのドリンクバーが無料ということを知って)「ドリンクバー無料なんだけど！やばい！すごい！」
- (5) (アーティストが新曲を完成したことを報告)「新曲、完成したーーーーーっっっっ！ すごーーーー、かっこいいぜ!! ヤバイ！ 本気でヤバイ！」
- (6) (好きな役者と道ですれ違って興奮気味に)「やばいやばいやばいやばいー\(/▽/)\ 一番好きな役者さんと暗い住宅街ですれ違ったーっ!! 興奮！」

(1)はテレビ番組の企画での発言である。あるフットサルコートに貼ってあった、元サッカー日本代表とフットサルの試合ができるというポスターを見た一般客が興奮しながら連呼していた。

(2)もテレビ番組での発言である。タレントが音楽大学にある何億円もする高級なパイプオルガンを特別に弾かせてもらった際に、大きい声で興奮しながら。

(3)はイベントの出演者がそのイベントで発売されるTシャツを見ての感想をツイートしたものである。

(4)は女性が地元で新しくできたカラオケのドリンクバーが無料ということを知り、ツイートしたものである。多くのカラオケはドリンクバーが別料金になるため、無料ということに驚きそして嬉しさを感じていることが推測できる。

(5)はアーティストが、自身の新曲の完成を報告した際のツイートの一部である。完成した新曲に対し「やばい」を使っている。

(6)はある女性タレントのツイートである。好きな役者と道ですれ違ったことに興奮していることがわかる。またやばいという言葉が4回続けそのあとに顔文字を入れることにより、かなり興奮していることと嬉しいということを表している。

(1)～(5)までは人、物、商品など偶然に目にしたものや、出来事の状態など、発話者にとって良いもの、素晴らしいもの、感動する場合は「やばい」の対象になっている。使い方は否定的・マイナスの「やばい」と同じである。発話者の感情が一気に高まったときに使われる。意味としては「素敵」「可愛い」など使う対象や状況によって変わると考えられる。

(6)は発話者に良いことが起こったときに使われる「やばい」である。洞澤・岩田(2009)によると「肯定的・プラスの『やばい』」と「否定的・マイナスの『やばい』」で異なる点は以下の通りである。

#### ◆肯定的・プラスの「やばい」

- ・発話者(一人称)だけではなくそのほかの人や物など(三人称)が関わる出来事に使われる。
- ・現在の出来事に限定されて使われる。

#### ◆否定的・マイナスの「やばい」

- ・発話者(一人称)が関わる出来事だけに使われる。
- ・現在だけではなく過去や未来の出来事に対しても使うことができる。

### 2. 3. 3 副詞的用法

否定的・マイナスの「やばい」と同じように程度を表す用言を修飾して、それを強調する程度副詞として使われる。



- (1) (プロのバスケットボール選手の試合を見て)「やばいくらいうまい!スピードが速すぎ。必ずまた来ます」
- (2) (芸人が参加したイベントの動画について)「てかみんな、ヤバいくらいハジけてんな〜。」
- (3) (野球が好きな若者が応援する球団が日本一になり)「やらないけど堀川に飛び込みたいくらいうれしい。やばい最高!」

(1)は2006年1月14日の朝日新聞の朝刊記事から。バスケットボール部の中学生がプロのバスケットボール選手の試合を見た感想である。プロ選手の試合を見て「バスケがうまい」ということを強調している。

(2)はある飲料品のキャンペーンに関するツイートである。若手芸人が「はじけている(とても盛り上がっている)」ことを強調している。

(3)も朝日新聞の記事である。2007年11月2日の中日ドラゴンズが日本一になったときの記事で、ファンの言葉である。これは2.2.3でも触れた省略された「やばい」である。「やばい最高」は「やばいくらい最高」であり「くらい」が省略されている形である。ここでは「最高」であることを強調している。

副詞的用法においては、肯定的・プラスの「やばい」も否定的・マイナスの「やばい」も、基本的に使い方は同じである。

## 2. 4 現状のまとめ

現在使われている「やばい」を2つの意味と3つの用法に分類し分析した。

分類・分析をしていると、どこにも当てはまらない、またはどこに当てはめていいのかわからないような実例もいくつか出てきた。これは主にTwitterなどインターネット上で多く見られる。

例えば「やばいくらいにやばい」というツイート。用法としては副詞的用法ではあるが、2つ目の「やばい」がどのような意味なのかはこのツイートからは判断することができない。このような「やばい」は分類が難しい。インターネット上のコミュニケーションは文字と記号が中心であるために、「やばい」が使われている部分だけを注目してもどのような意味か伝わりにくい可能性がある。特にTwitterは140文字以内で発信するツールである。この140文字以内に「やばい」の前後の文脈や状況などが無い場合は、発信者が伝えたい意味とは違う意味で捉えられてしまうこともあるだろう。

また元々は形容詞として否定的・マイナスの意味で使われる「やばい」だが、現在は肯定的・プラスの新しい意味だけではなく、新しい用法もある。それが独立語的用法や副詞的用法である。これらは形容詞的な使い方ではないため、新しい使い方である。近年「やばい」で会話が成立する背景は、このように新しい意味や新しい用法が発達したことも要因の一つとして考えられるだろう。

## 第3章 「やばい」とコミュニケーション

### 3. 1 「やばい」は受け入れられているか

#### 3. 1. 1 調査結果から見る新しい意味の「やばい」

第2章では現在の「やばい」を分類、分析した。その結果、新しい意味と用法があることがわかった。それでは新しい意味(肯定的・プラスの意味)の「やばい」はどのくらい受け入れられ

ていて、どのように受け入れられているのだろうか。3つの調査結果から分析し、考えていく。  
使用する調査結果は以下の3つである。

- a 塩田雄大 『「新興台頭表現」の属性差とメディア—っていうかヤバくない?— ～「近年の言語変化」全国調査から(1)～』(2003)
- b 文化庁 『平成16年度 国語に関する世論調査』(2005)
- c 鎌水兼貴編 『首都圏の言語実態と動向に関する研究 全国若者語調査地図集』(2013)

aの調査では「やばい」を「すてきだ、かっこいい」というプラスの意味で使うとおかしいと思うか思わないか、また自身が使うか使わないかについて質問している。その結果以下の様な結果が出た。

	20代	30代	40代	50代	60代以上
おかしい	68%	88%	85%	89%	86%
おかしくない	30%	11%	13%	8%	10%

	20代	30代	40代	50代	60代以上
使う	35%	13%	10%	10%	6%
使わない	63%	86%	88%	86%	90%

	男性	女性
おかしい	82%	87%
おかしくない	15%	11%

	男性	女性
使う	82%	87%
使わない	16%	10%

bは文化庁が行った調査である。この調査では「とてもすばらしい(良い、おいしい、かっこいい等も含む)」という意味で、「やばい」という言い方をすることがあるかどうかと質問している。その結果、全体の結果としては「ある」と答えたのが18.2%、「ない」と答えたのが81.4%であった。しかし、性・年齢別では以下の様な結果が出た。

「とてもすばらしい(良い、おいしい、かっこいい等も含む)」という意味で、  
「やばい」という言い方をすることがあると答えた人の割合

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
男性	75.8%	51.7%	24.4%	19.9%	11.5%	8.1%
女性	65.8%	53.2%	23.9%	14.2%	9.4%	3.6%

cは全国の大学生を対象に調査が行われた。この調査では回答者の年齢の記載がないが、本論文では一般的な大学生の年齢である18～22歳と仮定する。「やばい」を「味が良い」という意味で使うかという質問に対し「使う」と答えたのは72%であった。

次にこれらのデータから年齢差と性差にわけて、「やばい」が受け入れられているか分析していく。

### 3. 1. 2 年齢差

3.1.1で挙げた調査結果を見ると、年齢によって結果に大きく差が出ていることがわかる。新しい意味の「やばい」を、使う、おかしくないと答えたのは、特に10～20代の若者世代に多い。一方で30代以降になると、使う、おかしくないと答えた人は一気に少なくなっている。年齢が上がるにつれて、使う、おかしくないと答えた人は少なくなっていく、使わない、おかしいと答えた人が増えている。

この結果から、若者世代は新しい意味の「やばい」を気軽に使っていることがわかり、受け入れていることがわかる。しかし、若者世代より上の世代になると、新しい意味の「やばい」に対し違和感を持ち、使うことに抵抗感があると推測でき、この世代は新しい意味の「やばい」を受け入れていないことがわかる。

朝日新聞の読者からの投稿では、若者が新しい意味での「やばい」を使っていることに対し良くないと感じているという意見がいくつか見られた。

「ヤバイ」もプラスの意味で使う人が多いというが、私は「このパスタ、ヤバイ」と言われたら作る気をなくす。「おいしい」が相手に届かなくては意味がない。(64歳女性)

(朝日新聞 2012年10月25日 朝刊)

バスに乗っていると大学生らしい若者が「チョーむかつく」とか「メチャやばい」などと口にしてる。

美しい日本語の響きは、いったいどこへ行ってしまったのだろうか。不思議な気さえする。

(58歳女性)

(朝日新聞 2009年11月20日 夕刊)

このように、実際に新しい意味で「やばい」を使うことに対する抵抗感や、なぜ使うのかという疑問などが見られた。

しかし、必ずしも若者世代が新しい意味の「やばい」を受け入れて、若者世代より上の世代が新しい意味の「やばい」を受け入れていないとはいき切れない。若者世代の中にも良い意味で「やばい」を使っていることに対して、変だと感じている人もいれば、若者世代より上の世代でもなぜ若者が新しい意味でも「やばい」を使うのかと興味を持つ人もいる。

なおaとbの調査は、約10年前に行われたものである。cの調査結果で大学生の72%が新しい意味で「やばい」を使うと答えていることから、現在では新しい意味の「やばい」を、使う、おかしくないと思う人は、当時よりも増えていると考えられる。今後もこの割合は増えていくことが予測でき、いずれはどの世代にも新しい意味の「やばい」が受け入れられるようになる可能性もあるだろう。

### 3. 1. 3 性差

次に性別ごとに調査結果を見てみよう。aとbの調査結果を見ると、大きな差はないものの、使う、おかしくないと答えた人はほとんどが男性の方が多く、女性の方が若干少ない。これは「やばい」という言葉が元々隠語であり、良い意味の言葉ではないことから、特に女性は抵抗感が強いことが理由であると推測できる。朝日新聞の読者からの投稿には次のようなものがあった。

着物を着て出席した日のこと。学生たちが私の姿を見て「ヤバイよ、ヤバイ」と言い続ける。何か粗相をしたか、左前右前を間違えたかと内心慌てていたら、「ヤバイカワイイ」と言われた。

「ヤバイ」はほめ言葉らしい。「そんなヤクザ言葉を使ってはいけません」と育てられた私とは隔世の感がある。ほめられた気がしなかった。(46歳主婦)

(朝日新聞 2012年10月31日 朝刊)

この投稿は大学の公開講座に通っている女性によるものである。この投稿文の中に「ヤクザことば」というキーワードがある。「やばい」をヤクザ言葉として認識しているため、肯定的・プラスの意味で使われても違和感があるのだろう。

『はじめて学ぶ社会言語学 ことばのバリエーションを考える14章』の第11章で佐野真一郎は、女性には男性よりも「正しい文法」とみなされる言語表現を好んで使うという傾向が、男性には女性よりも「正しい文法」とは認められない俗語などの用法を好む傾向があることがわかっていると述べている。また佐野によると、俗語などの「正しくない文法」は男性らしさや、強さが強調される面があるという。新しい「やばい」は俗語と見なされていると言えるだろう。そのため、男性には受け入れられているものの、女性には受け入れられていないということが考えられる。

### 3. 2 外国人にとっての「やばい」

ここからは外国人にとって新しい意味の「やばい」がどのような存在であるかを見ていく。外国人が「やばい」をどのように捉えているかを分類すると否定的なタイプと肯定的なタイプに分けられる。

#### 3. 2. 1 否定的タイプ —日本語の乱れ—

否定的タイプとして挙げられるのが、新しい意味の「やばい」を日本語の乱れとして捉えている例である。2012年6月2日に行われた、第53回外国人による日本語弁論大会ではラオスの専門学生であるチャンピソンミッド・パカムが「日本人の若者の『やばい』言葉遣い」、2006年2月17日に行われた、川崎市国際交流協会主催の第12回外国人市民による日本語スピーチコンテストでは中国人の学生である李振全が「美しい日本語よー、どこへ」というタイトルで、それぞれ「やばい」について自分の考えを述べている。

この2人のスピーチで共通しているのは否定的・マイナスの意味で使われていたはずの「やばい」が、肯定的・プラスの意味としても使われていることを間違いとし、日本語の乱れとして捉えていることである。2人とも「やばい」は否定的・マイナスの意味であると思っていた。しかし日本人の友人が料理を口にしたときに「やばい」と言うのを聞き、驚きまた意味がわからなかったそうだ。

チャンピソンミッド・パカムのスピーチでは、元々否定的・マイナスの意味で使われていた「や

ばい」が今では肯定的・プラスの意味で使われていることに対し、「日本人のユニークな言葉の使い方」としている一方で次のようにも述べられている。

「私はみんながきれいな日本語を話したらいいなと思います。だって嬉しい時には「嬉しい」と言いますが、大変な時に「嬉しい」とは言わないでしょう。「ほかの人も使ってる言葉だから自分も使おう」ではなく、元々のその言葉の意味やどんな場合に使ったらよいのかを考えることも大切だと私は思います。」

李振全は、スピーチで他にも気になる日本語をいくつか挙げ、なぜ多くの日本人の若者がくずれた日本語を使うのかと述べた。李は元々日本のドラマやニュースなどの影響を受け日本語を勉強したいと思い日本に来た。日本人は勤勉で、美しい言葉を遣い、自国の文化をきちんと守っている国民と思っていたそうだ。しかし実際はそうでなく、日本人に対するイメージは変わっていった。李は多くの日本の若者は本来の意味としての言葉を使えず、新しい言葉やあまり意味のないように思える短縮語を使っていると感じている。李は、言葉は生き物だから変化するのは当たり前かもしれないとする一方で、昔通りの意味をなくさないようにし、伝統的な文化や大切な言葉を守らなくてはならないと述べている。

2人の外国人のスピーチを通して、彼らが日本語を文化として受け止め、元々の意味を大事にするべきだと考えていることがわかる。そのため新しい意味の「やばい」は日本語の乱れと感じるのだろう。

### 3. 2. 2 肯定的タイプ —流行語—

「やばい」を、本来の意味ではなく肯定的・プラスの意味で使ったり、むやみやたらに使うことに対し、日本語の乱れと否定的に捉えている一方で、日本の流行として取り入れようとする外国人もいる。2001年5月13日の朝日新聞の朝刊には、モンゴル出身の力士の旭天鵬と旭鷲山が日本語を流暢に使っているという記事の中に、次のような一文がある。

「2人で話す時も日本語。流行語も普通に使いますね。ちょーやばいかなーっていうかー」

ここでは本来の意味なのか、新しい意味なのかは書かれていないが、流行語として認識されていることから、3.2.1で日本語の乱れとして捉えられている「やばい」と同じものと推測できる。また外国のサイトで流行の日本語を紹介されているページにも「やばい」が紹介されており、本来の意味だけではなくプラスの意味でも使われると説明されている。これらのことから新しい意味や新しい用法の「やばい」を、乱れではなく流行と捉えている外国人がいることがわかる。2000年頃から新しい「やばい」が頻繁に使われるようになったが、日本でも新しい「やばい」は流行語と捉えられていた。ここ数年で日本にきた外国人は、いきなり新しい「やばい」を耳にして、戸惑いや抵抗感を感じたのだろうか。一方2000年にすでに日本にいた外国人は、新しい「やばい」は日本語の乱れではなく流行語として受け入れることができたのかもしれない。先に挙げたモンゴル人力士2人も、記事が掲載された2001年の時点では日本に来て9年経っていた。

どちらにせよ現在の「やばい」は文脈により意味が変わる言葉である。「やばい」の意味だけ覚えてコミュニケーション上で使っても、その時の状況や誰が言って誰が聞くかによって意味が変わってしまう。「やばい」を流行語として受け入れ、使うためには日本語をある程度理解し、

日本人とコミュニケーションが取れなければ難しいだろう。

### 3.3 広告・商品・宣伝に使われる「やばい」

ここでは本来の意味や用法ではなく、新しい意味や用法の「やばい」が使われている広告・商品・宣伝などの事例を挙げていく。

#### (1) マツモトキヨシの店頭ポップ「やばい！激安」

値引き商品が入ったワゴンに貼られていたポップのコメントである。ワゴンの中には、有名なメーカーの少し高めシャンプーが入っていた。「やばい！」の後ろには「くらい」が省略されていると推測し、激安を強調するために使われていることから副詞的用法と言えるだろう。

#### (2) ヤバフォ

2007年にできた大阪・難波にある namBa HIPS の外壁に設けられたフリーフォールの名称。このビルは12階建て高さ86メートルの商業ビルで、パチンコ店やゲームセンター、飲食店などが入っている。ヤバフォは、高さ74メートルから秒速22メートルで60メートル落下する6人乗りのフリーフォール。名前の由来は「やばいくらい楽しいフリーフォール」。楽しいを強調していることから、副詞的用法である。

#### (3) クノールカップスープ CM 「うんまーい！やばいよ横山」

関ジャニ∞の横山裕が出演しているカップスープのCM。片言の日本語を喋る外国人の子供がスープの美味しさを「やばい」で表現していることから、述語的用法である。「やばいよ横山」を連呼しスープが美味しいことを面白おかしく表現している。

#### (4) ストライド 「ヤバいほど味長続き」

味が長続きするガムのキャッチコピー。味が長続きすることを強調しているため、副詞的用法である。またこのガムの宣伝には他にも「やばい」が使われている。例としては、「ヤバーランド」「ヤバいやつら大集合！」「ヤバいことがしたい、キミを待つ！」などがある。

#### (5) 参考書 「カリスマ〇〇生が教えるやばいシリーズ」

大学受験用の参考書である。東大や慶応などの大学生が著者である。参考書であることからやばいくらいわかる、やばいくらいわかりやすいなど副詞的用法であると推測できる。

このように商品・宣伝・広告だけではなく会社名に「やばい」が使われている例もある。クリエイティブディレクターの箭内道彦は、2011年6月末に経営していた会社を解散し新たな会社を設立した。その会社名は「すき あいたい ヤバイ」である。今までにない会社名であるが箭内はなぜこのような会社名を付けたのだろうか。月刊SPA!のインタビュー記事に次のような答えがあった。

「新会社の『すき』という言葉は、誰のなかにもある『否定できない最強の言葉』だと思います。『あいたい』という言葉も、『人との出会いから違う自分が生まれる』という意識から生まれたネーミング。それに、電話で『すきです』『あいたいです』と名乗られたら、ドキッとしますよね。ただ、この2つだけだとなんだかかわいい会社だと思われそうなので、『ヤバい』は照れ隠しに使っています(笑)。人によってはいい意味にも悪い意味にもとられる言葉なので、実験的で面白いなと思いました」

「重要なコミュニケーションツールの一つです。社名がきっかけで顧客との会話が生まれたり、強い印象を与えられれば、名乗るたびに費用がかからない広告を打っているのと同じですから」

「やばい」をあえてどちらの意味にも使わないという面白い使い方である。この会社名を目にしたり耳にしたりする人によって、感じ方が変わるのだろうか。また変わった会社名にすることにより新たなコミュニケーションが生まれ、インパクトを与えることもできる。「やばい」も使い方によっては強い印象を植え付けさせることができると言えるだろう。「やばい」は、使い方によっては商品・広告・宣伝にたいへん向いている言葉と言えるだろう。

### 3. 4 「やばい」は意味が変わる言葉—筆者の実体験から—

第3章では新しい意味や用法を分類し、分析してきた。本来の意味や用法以外の使われ方をする現在の「やばい」は、文脈により意味が変わるとされている。普段はあまり意識しないが筆者がこの違いを実感した出来事があった。

あるアイドルのイベントが開催されることになり、イベント参加券をもらうために朝早くから会場に向かった。会場についたが朝早いにも関わらずそこにはすでに多くの人が並んでいた。これまで何回もその会場でイベントを行っていたが、いつもよりも多くの人が朝早くから並んでいることに驚きながら列に並んだ。すると列の前の方から男性二人が歩いてきた。そして列を見ながらその男性の一人が「やばいなー。」と言ったのである。

さて、このときの「やばい」はどのような意味なのだろうか。この男性がどのような人なのかによって2つの意味に考えられる。

#### ◆この男性が会場に着いたばかりでこれから列に並ぶ人だった場合

この場合、朝早いのにすでに多くの人が並んでいるのを見てこれから列に並んでも自分はイベント参加券をもらうことができないかもしれないと感じていると考えられる。

⇒まずい、不都合なこと

#### ◆この男性がすでに列の前の方に並んでいた人だった場合

すでに列の前の方に並んでいてどれくらいの人が並んでいるのか様子を見に来ていた場合、前の方に並んでいるのでイベント参加券がもらえる可能性は十分あることからもらえない心配をする必要はない。この場合は朝早くから多くの人が並んでいることに対して言っていると考えられる。

⇒すごい（驚き）

このように、誰がどのような状況で「やばい」を使うかによって意味が変わってくるのがわかる。またこのような場合は、「やばい」と言った人とそれを聞いた人とは、意味の捉え方に差が出てくる可能性もある。前から歩いてきた人が人数が多いことに対して驚き「やばい」と言っても、聞いている人が列の後ろの方に並んでいる人であった場合「自分はイベント参加券をもらえないのか」と思うかもしれない。筆者は実際にこの場面に遭遇したが、瞬時にどちらの意味なのかを理解することができず「人が多すぎてイベント参加券は厳しいのか」と捉えた。この時「やばいなー」と言った男性が本当はどのような意味で言ったのかは不明だ。しかしこの男性と、

この男性が言った「やばいなー」という言葉を聞いた人たちが、全く同じ意味としては捉えていない可能性があると考えられるだろう。このように「やばい」という言葉はどのような状況で誰が使うかだけでなく、どのような状況で誰がその言葉を聞くかによっても、意味が変わることがわかる。このことから、コミュニケーションにおいて「やばい」という言葉は意味が変わりやすい言葉と言えるだろう。

### 3.5 コミュニケーションにおけるメリットとデメリット

第3章では様々な角度から「やばい」とコミュニケーションについて分析し、考えてきた。それではコミュニケーションにおいて「やばい」を使うとどのようなメリットとデメリットがあるのだろうか。

大きなメリットとしては「便利」ということが挙げられるだろう。「やばい」は新しい意味と用法が増え、文脈により意味が変わる言葉になった。非常にオールマイティーな言葉、つまりどのような場面にも使える言葉である。自分が伝えたいことは、とりあえず「やばい」を使うことにより伝えることが可能なのである。このようにどのような意味にもなる言葉は多くはない。そのような点では、どのようなことも「やばい」の一言で済むのは便利と言えるだろう。

しかし、このメリットはデメリットにも繋がるだろう。何でもかんでも「やばい」で伝えようとしても、きちんと伝わらない可能性は十分ある。自分と相手が「やばい」という言葉を同じように認識していない場合、コミュニケーションが成立しなくなる。

例えば3.1.1でわかるように、年齢によって「やばい」の受け入れ方が違うことから、ある程度年齢が離れた人との間で「やばい」を使うと、自分の伝えたいことが正確に伝わらないこともあると考えられる。若い人が褒める意味で「やばい」を使ったとしても、相手はその意味で「やばい」を認識していないと、褒められたことに気付かない。それどころか逆に不快感を与えかねない。これは個人間のコミュニケーションだけでなく、3.3で取り上げた広告や宣伝にも当てはまることである。企業がどれだけ商品の魅力を伝えるために「やばい」を使っても、それを見た人が「やばい」を否定的・マイナスの意味に捉えてしまうと意味がない。また肯定的・プラスの意味で「やばい」を使うことを受け入れていない人は、このような広告や宣伝に良い印象を持たないかもしれない。

さらに3.2のようにコミュニケーションをとる相手が外国人であった場合は、さらにデメリットが大きくなるだろう。日本に来たばかりで日本語をあまり理解していない外国人にとって、文脈によって意味が変わってしまう「やばい」は難しい言葉である。そのような外国人を相手に「やばい」を使ってしまうと混乱させてしまうだろう。

このように「やばい」は便利というメリットがありつつも、コミュニケーションをとる相手と「やばい」の認識が違う場合にはメリットが生かされず、デメリットになってしまうこともあるということがわかる。

同世代などの限られたコミュニティ内では「やばい」が気軽に使え、どのような場面でも使えることから、便利というメリットはある。しかし一方で、普段は話さない人や違う世代、外国人など様々な人々とコミュニケーションをとる場合はデメリットのほうが大きくなることは十分考えられることである。

## 終章

第2章では現在の「やばい」の分類と分析を行い、第3章はコミュニケーションという観点か



ら現在の「やばい」について考えてきた。新しい「やばい」は、3.1.1の調査結果から若者世代に定着していると言えるだろう。おそらくこのまま衰えることはないと考えられる。数十年後には、完全に定着化しどの世代も新しい「やばい」を受け入れて、普通に使うときが来るだろう。言葉は時代の流れとともに変化するものである。そのため、「やばい」がどんどん変化していくのも仕方がない事なのかもしれない。

しかし、現時点で新しい「やばい」は完全に定着しているとは言えない。約10年前の調査結果から推測すると、おそらく現在でも40～60代以上はまだ受け入れがたいと感じているだろう。新しい「やばい」を受け入れている人と受け入れていない人がいるということは、誰にでも通じる言葉であるとは言えない。

また、いずれ新しい「やばい」は定着する可能性があったとしても、文脈によって意味が変わるという要素は変わらないだろう。定着したとしても、自分の伝えたいことが相手に確実に伝わるかどうかはわからない。逆に相手が伝えたいことが確実に自分に伝わるかもわからないのである。どのような状況で、どのような人が、誰に向かって「やばい」を使うのかによって意味が変わってしまう「やばい」をコミュニケーションで使うことは実はとても難しいことなのかもしれない。

これらのことをふまえると、「やばい」という言葉はとても便利な言葉ではあるが、コミュニケーションにおいては気を付けて使うべき言葉と言えるだろう。限られたコミュニティ内で使っても、それ以外の人々とコミュニケーションをとる場合は使うべき言葉ではない。

確かに言葉は時代の流れで変化する。しかし自分の気持ちを伝えるのに「やばい」だけで全てを表すのは無理があるだろう。日本語にはたくさんの表現方法がある。「やばい」を使うなどは言わないが、新しい「やばい」を受け入れていない人もいる以上、できるだけ「やばい」ではなく、場面ごとに適した日本語表現を使えた方が良くだろう。

#### 【参考文献】登場順（新聞記事除く）

- 松村明監修 『Yahoo!辞書(出典元 デジタル大辞泉)』 <http://dic.yahoo.co.jp/> (アクセス日 2013年12月16日)
- 西谷裕子 (2009) 『身近な言葉の語源辞典』 小学館
- 西垣幸夫 (2005) 『日本語の語源辞典』 文芸社
- 吉田永弘 (2008) 「やばい」 山口佳紀編『暮らしの言葉 新語源辞典』 講談社
- 米川明彦 (2003) 『日本俗語大辞典』 東京堂出版
- 亀井肇 (2004) 「今月のことば」『月刊商工会11月号』 全国商工会連合  
<http://www.shokokai.or.jp/shokokai/pdf/200411/今月のことば.pdf>
- 井上博文 (2011) 「一若者ことば「ヤバイ」の意味変化—」『大阪教育大学キャンパスことば (25)』  
[http://osaka-kyoiku.ac.jp/\\_file/gakusei/kikaku/gakudayori/163/campuskotoba.1.pdf](http://osaka-kyoiku.ac.jp/_file/gakusei/kikaku/gakudayori/163/campuskotoba.1.pdf)  
[http://osaka-kyoiku.ac.jp/\\_file/gakusei/kikaku/gakudayori/163/campuskotoba.2.pdf](http://osaka-kyoiku.ac.jp/_file/gakusei/kikaku/gakudayori/163/campuskotoba.2.pdf)
- 塩田雄大 (2003) 『「新興台頭表現」の属性差とメディア—っていうか、ヤバくない?—「近年の言語変化」全国調査から(1)』『放送研究と調査』第53巻第4号 日本放送出版協会
- 洞澤伸・岩田奈津紀 (2009) 『若者たちの間に広がる「やばい」の新しい用法』  
<http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/handle/123456789/25225>
- 文化庁 (2005) 『平成16年度 国語に関する世論調査』
- 鎌水兼貴 (2013) 『首都圏の言語実態と動向に関する調査 全国若者語調査地図集』 国立国語研究所 <http://>

//www.ninjal.ac.jp/research/project/c/metropolitanarea/

佐野真一郎 (2012) 「第11章「やばい」の変化を分析する」日比谷潤子編『はじめて学ぶ社会言語学 ことばのバリエーションを考える14章』 ミネルヴァ書房

チャンピソンミッド・パカム (2012) 「日本人の若者の『やばい』言葉遣い」国際教育振興会、国際交流基金、松江市主催『第53回外国人による日本語弁論大会』

[http://www.iec-nichibei.or.jp/speech/pdf/53\\_Pakham.pdf#search=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E8%8B%A5%E8%80%85%E3%81%AE%E3%82%84%E3%81%B0%E3%81%84](http://www.iec-nichibei.or.jp/speech/pdf/53_Pakham.pdf#search=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E8%8B%A5%E8%80%85%E3%81%AE%E3%82%84%E3%81%B0%E3%81%84)

李振全 (2006) 「美しい日本語よ～、どこへ」川崎市国際交流協会主催『第12回外国人市民による日本語スピーチコンテスト』

<http://www.kian.or.jp/pdf/news/0604/02-04.pdf#search=%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%B8%82%E6%B0%91%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E+%EF%BC%91%EF%BC%92%E5%9B%9E>

日刊SPA! 「「会いたい」が最強の社名である理由」『—まぶしすぎる！ [キラキラ社名] 大集合【1】—』 <http://nikkan-spa.jp/181063> (アクセス日 2013年12月3日)

朝日新聞 2001年9月24日朝刊、2002年1月1日朝刊、2006年1月1日朝刊、2007年11月2日、2012年10月25日朝刊、2009年11月20日夕刊、2012年10月31日朝刊、2001年5月13日朝刊